

1年 なかよし組 算数科学習指導案 授業者

本単元では、『「長い・短い」が正しく分かること』と、『まずは直接比較の比べ方を知ること（そういう風にやればいいんだと知り経験を積む）』を主として目指しています。

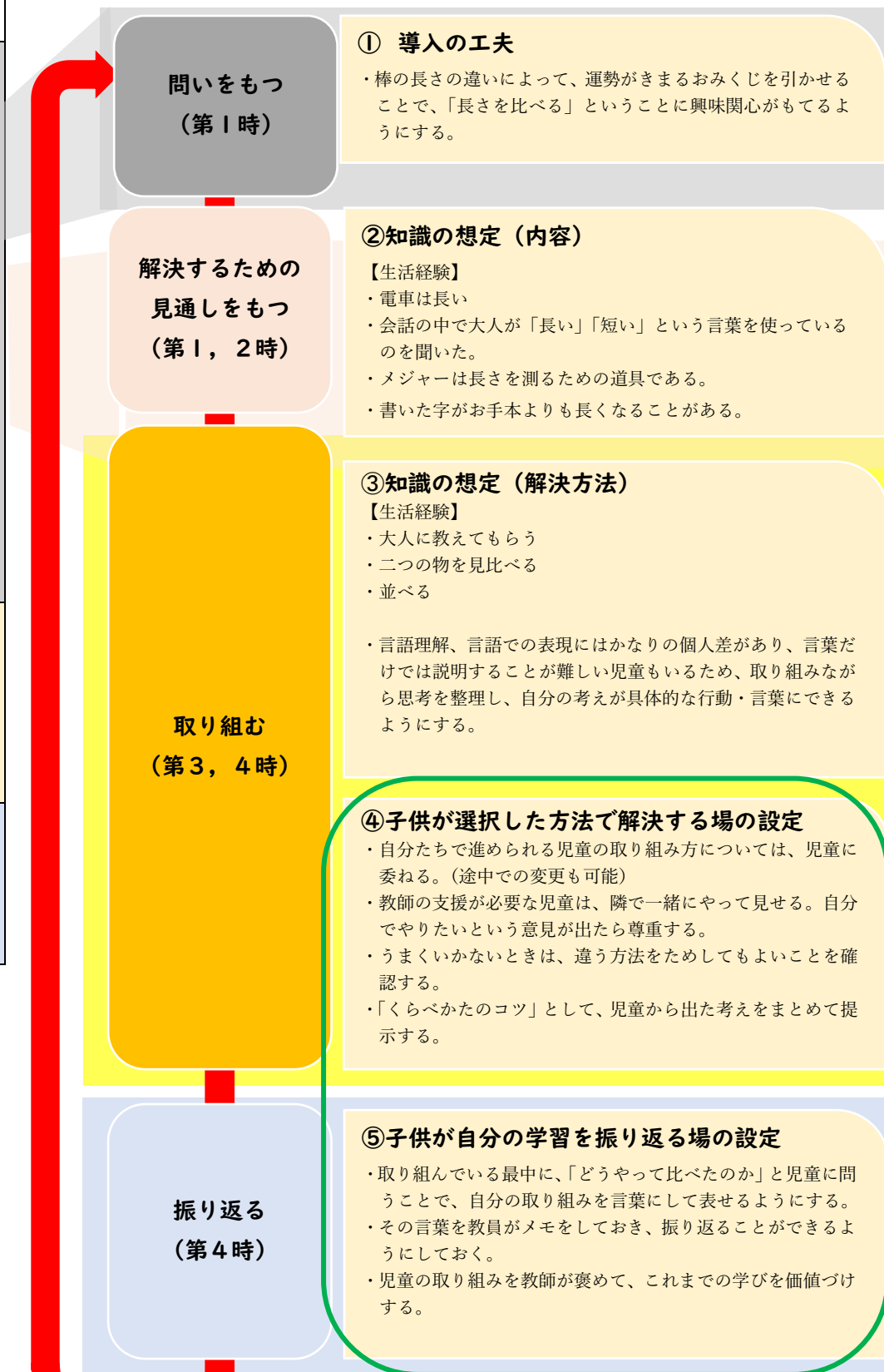
単元名	どちらがながい	単元の目標	長さの比較などの活動を通して、長さを表す用語や測定についての基礎的な意味を知り、身の回りにあるものの長さについて比較する力を養う。
-----	---------	-------	---

単元計画

次	時	単元計画
1	1・2	【問いをもつ】【見通しをもつ】 【解決方法を考える】 一目では長さを比べることができない棒を引き、一番長い人や一番短い人を調べる。 長さの比べ方で大事なこと（比べ方のコツ）を活動に取り組みながら見つける。 「くらべかたのコツ」 ・はじっこをそろえる。 ・ <del>ぐにやぐにやのものは「びん」とのばす。</del> →第4時で取り扱う（児童の表現に合わせる）
	3	【取り組む】 ・自分の筆箱の中で一番長い鉛筆を見つける。 ・全員で鉛筆の長さを比べ、クラスで一番長い鉛筆を決める。
2	4	【取り組む】【振り返る】 生活単元で作った輪飾りを使って、これまで学んだことを活かして長さ比べをする。

学習サイクル

教師の手立て



本時の展開（4時間目/4時間）

学習過程	○学習活動 C:予想される児童の反応	・教師の手立て ◆評価【観点】（方法）
取り組む・振り返る	(1) 本時の目標 ○輪飾りの長さを、直接比較によって比べることができる【知・技】 ○自分で比べ方を考え比較し、長さ順に並べることができる。【思・判・表】	・これまでの学習を思い出しやすくするために、これまでの学習を写真等で提示する。 ・「比べ方のコツ」を確かめたり、繰り返し行って確かな経験にしたりするためにおみくじを引く。 ・大事なポイントを落とさず比較ができるように、前時まで出た意見をまとめ、「くらべかたのコツ」として掲示する。 ・児童が安心感、達成感を感じられるように、取り組み方は児童に委ねるが、本時の活動の場合は必然的に協力が必要であることを伝えておく。 ・児童が自分の考えを表現し、その記憶を保持できるように、活動中に児童に問いかけ出てきた言葉を復唱するなど、行動と言葉での表現が一致するように働きかける。 ◆輪飾りの長さを直接比較で比べることができた。【知・技】（観察） ◆友達の輪飾りと比較し、長さ順に並べることができる。【思・判・表】（観察、 ・長さランキングができれば、児童の考えを引き出すために、どのようにしてその結果が分かったのかを児童に問う。 ・「比べる時のコツ」と重なるところがあれば、これまでの学習と結びつけながら褒めて価値づけていく。
	(2) 本時の展開 ○おみくじを引いて、これまでの学びを振り返る。 T：じゃあ、今日もおみくじを引いて運勢を占ってみよう。 T:おみくじの長さを比べたとき、みんなはどんなやりかたで比べたんだっけ。 C：ぴったりくっつけた C：並べた C：こうやってやった！（具体物を使って見せる）  ○めあてを確認する。 <div>どれが いちばん ながいかな？</div> T：長さを比べる前に、もう一度比べ方のコツを確かめようね。「くらべかたのコツ」って何があったっけ？ C：はじっこをそろえる！ C：まがらないように… C：まっすぐにする  ○輪飾りの長さを比べる T：誰が一番長いんだろう？どうやって比べたらいいかな？ C：並べたら、こっちが長いってわかったよ！ C：曲がってるからどっちが長いかわからないよ C：まっすぐにしたらいいんだよ。ほら、こうやって… C:引っぱったらやぶれちゃうよ！ C：この中だとこれが一番長いよ！ C：私の長い！  ○どのようにして長さの順番が分かったのかを振り返る。 T：どうやってAさんが1番、Bさんが2番…て分かったの？ C：Aさんと僕のを比べたよ C：端をくっつけて（揃えて…） C：曲がってるのは、びんと伸ばしたんだよ	

次	時	単元計画	教師から提示した新しい知識 子どもと共有した事象や言葉
1	1・2	【問いをもつ】【見通しをもつ】 【解決方法を考える】 一目では長さを比べることができない棒を引き、一番長い人や一番短い人を調べる。 長さの比べ方で大事なこと（比べ方のコツ）を活動に取り組みながら見つける。 「くらべかたのコツ」 ・はじっこをそろえる。 ・ぐにゃぐにゃのものは「びん」とのぼす→第4時で取り扱う （児童の表現に合わせる）	①「揃える」という言葉の意味 →子どもの「ずれないように」の言い換えとして提示。「ピタッと合わせてずれないようにすること」として子どもと共有している。  ②「はじっこ」の意味 →揃えるときに「ここ」「下」というので、「はし（はじ）」という言葉があることを教えた。子どもから「はじっこ」という言葉が出たので、その言葉で学習を進めている。「はじっこは終わりのところ」であることを伝えた。
	3	【取り組む】 ・自分の筆箱の中で一番長い鉛筆を見つける。 ・全員で鉛筆の長さを比べ、クラスで一番長い鉛筆を決める。	③はじっこをどうして揃えないといけないの？ずれてても分かるんじゃない？と問いかけた →「だって、ずれてたらこっち（飛び出ている方）が大きいんじゃないかって間違えちゃうから！」とBが発言。子どもにとって、飛び出ている方＝長いという捉えがあることが分かった。「だからはじっこを揃えないといけないんだね。」と全体で共有した。
2	4	【取り組む】【振り返る】 生活単元で作った輪飾りを使って、これまで学んだことを活かして長さ比べをする。「くらべかたのコツ」 ・はじっこをそろえる。 ・ぐにゃぐにゃのものは「びん」とのぼす。 （児童の表現に合わせる）	④ぐにゃぐにゃの物はピンとのぼす →活動の中で子どもたちから引き出し、価値づけていきたい。

A	みんながおみくじを引いたら一緒に引くが、比べようとするそぶりはなし。教師が具体物を操作して、「どっちが長い？」と聞くと、「こっち」と指差す。「じゃあこっちは？（短い方）」と聞くと「細い」と答える。まだ、「長い」はおおむね分かっているが、その反対の意味が短いというのは捉えられていない。
B	長さを比べるということをはじめに提示すると、その後のおみくじは自然と友達と長さ比べをしていた。Dのやっていることをなぞるように取り組んでいたように思う。具体物を使って教師が比較し、「こうやった（具体物を隣り合うようにくっつけた）あとに、なにしてたの？」という質問に「ずれないようにした！」と回答。無意識の行動を意識下におくために、質問を繰り返す中で「下がずれないようにしたんだ！」という発言もあり。
C	みんなのやっていることを見て、活動を理解しようとしていた。Fと長さ比べをしていた時には、椅子の上でおみくじを2本まとめてトントンしたり、椅子に立てた状態で比べたりしていた。「どっちが長かった？」という問いには「こっち」と答えられた。「どうやってやった（比べた）の？」と聞いたがそれには答えられず、担任が彼の行動を再現し、価値づけをした。
D	図工の粘土の長さ比べの時から、『基準となる物の隣に置くこと』『端を揃えること』が分かっていた様子が見られた。そのため、おみくじ比べでも同様に、比較の活動に入ると率先して友達のおみくじを受け取り、端を揃えて比べることができていた。Bの発言を拾って行動を言語化していく時には、「ずれないようにってどこをずれないようにするの？」と聞くと「ここ！ここ！」と具体物を使って指さしをしていた。また、端を揃える前に「くっつける」という段階があるというのも彼の考えである。『端』という言葉を教えたときは「はじっこってこと？」とこれまでの知識と結び合わせていた。
E	長さ比べをすると知ると「長さか〜！」と多少興味をもっていた。おみくじは、BやDが比べているのに巻き込まれるような形で参加した。友達が比べようするとそれに応じた。比べるコツをみんなで整理して、言語や具体的な行動に表すと、それをもとに比べようとしていた。2時では長さにこだわり、なかなかおみくじが引けなかった。担任が代わりに引くが、予想よりも短いものだったためかショックを受けて教室の隅でほろほろ泣いていた。ただ、長いものがよい、今回引いたものは前回よりも短いという長さの感覚はあることが分かる。
F	「長い」という言葉は知っていた。とても長い物については「なっつつが！！」という発言があったりするので、「長い」はおおむね分かっていると思われる。ただ、僅差での長さの判断はまだ難しい様子。何度も繰り返し長さ比べをすることで、「くっつける」「はじっこを揃える」という手順は覚えつつあり、教師が引いたおみくじを渡すと一人で比べることができるようになってきている。端を揃えるときには自分の体に押し付けるようにして整えている。このやり方をするのは彼女だけなので、自分なりのやり方、またはこれまでの経験からの技能と思われる。

A	おみくじを引く活動では、長い方を聞くと、分かっているが目と手の協応が難しいのか指さしがぶれることが時折あり。何度か同じ質問をするとピタッと指さしできることも。「長いのもって」と言うと、とることができると分かった。教師が鉛筆を比べられる形にして、「どっちが長い？」と聞くと、長い方の鉛筆の先端をトントンとしながら「こっち」という。
B	鉛筆の比較は見た目で判断していたようだった。彼が選んだ一番長い鉛筆を確かめてみると、選んだものではなく、別の物の方が長かった。もう一度比べてみようと言をかけると、自分で比べて正しく選ぶことができた。揃える意識が抜けやすい。「あ、待って！揃えた??」と確認すると気付くことができる。
C	複数の物を一人で操作して比べることは難しかったが、二つずつ目の前に出すことで比べることができた。 1時間目のように机の上に置いて比べるかと思ったが、それはしていなかった。「立てて比べてたね」とやってみると、思い出したように取り組んでいた。
D	複数の物はおおむね一人で比べられるが、集中力によって精度が下がる。Bと同様にもう一度比べてみるように促すと正しく長さを比べることができている。結果を視覚的に示さなくても、「僕4番だったよ」と順位を把握することができている。
E	自分の鉛筆の中で一番長い鉛筆というのが分かっていたためか、目で見て明らかに短いものは比較している様子は見られなかった。一番長いものは自分で判断して違ったら嫌だったのか、教師を待っているようだった。一緒に比べると「こっちだ〜」と選ぶことができた。
F	複数の物を並べて比較することはやはり難しいようで、講師が付き添って比較をした。二つのものを並べると、どちらが長いかわかることはできる。教師が比べる順番や誰と比べるかを明確に示す必要がある。「長い」を「でかい」で表現することがあるため、ジェスチャーを取り入れながら「長い」が定着するようにしている。